

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

解剖学の性質上、今後の臨床講義や実習に向けて習得していなければならない必須の知識が多く、短い時間で多くの内容を伝える必要があることから、ハンドアウトを準備しています。これにより、書くことよりも、付加される応用編の情報を吸収しやすくすることを目指しています。また、解剖学にとどまらず、必要に応じて発生学、生理学の内容とリンクさせながら進めています。情報量をやや過分にすることで、学生が飽きないように、スピーディな講義を心がけています。また、臨床経験も踏まえて、関係する疾患や病態の解説を取り入れ、解剖学の知識の必要性を意識できるように工夫しています。

● 学生への要望・アドバイス等

2学年からは膨大な量の知識の吸収、獲得、およびその応用が求められるようになります。自分の学習スタイルを早いうちに確立し、基礎的な知識の習得にとどまらず、どんなに小さな狭い部分でも構いませんので、興味を持った部分を深く追求する余裕をもって欲しいと思います。その一つのきっかけとして、低学年のうちから、基礎医学の講座をふらっと訪ねて覗いてみるのも良いのではないのでしょうか。もしかしたら、そこに将来のノーベル賞の種が落ちているかもしれません。